

③ 農協等が中心となって複数市町村が広域連携して被害対策に取り組む事例

鳥獣被害対策におけるJAの支援

事例対象地：千葉県

団体：千葉県富里市、JA富里市

H P : city.tomisato.lg.jp/

キーワード：

農協と地域の連

地域防災

1. 概要

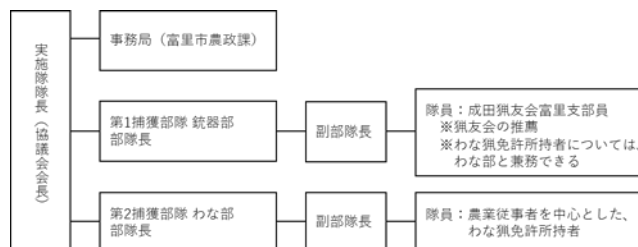
富里市では、平成29年に農地にイノシシの痕跡が見つかったことを端緒に、JAや市を中心に有害鳥獣被害防止対策協議会を立ち上げた。市とJAは、特産物のイベント等を通じて協働する協会が多いことから、連携・協力の強い関係ができあがっていた。JAが発行する広報誌に鳥獣被害対策の特集ページを作成して普及啓発を図ったり、独自に狩猟免許試験対策講習会や農作物被害対策アドバイザーを招いた研修会を定期的に行い、捕獲従事者を確保する取組を行っている。

2. 取組の経緯

平成29年に市内のスイカ畑でイノシシの痕跡が見つかった。周辺の市では既にイノシシによる農業被害が深刻化しつつあったことから、定着前に対策を進める必要があると考え、富里市有害鳥獣被害防止対策協議会を設立した。

3. 実施体制

有害鳥獣被害防止対策協議会は、富里市農政課、JA富里市など13の構成機関と、千葉県野生鳥獣対策本部など3つの関係機関で組織されている。鳥獣被害対策実施隊は、協議会会長を実施隊隊長とし、第1捕獲部（止めさし）、第2捕獲部（調査・わなの見回りなど）、事務局で構成されている。



富里市鳥獣被害対策実施隊の組織運営図

4. 取組のポイント

- JA富里市と連携したことにより、JAが発行している広報誌に鳥獣被害対策に関する特集を組むことで地域への普及啓発を図り、箱わなと電気柵、ユニットハウスの寄贈を受けられた。
- 20～70代と幅広い年齢層からなる銃器部、わな部の独自部隊を編成。
 - ➡ ベテランから痕跡の見分け方やわなの設置方法等を若手に伝授する体制が整っている。
- JAと連携して農業者団体での啓発活動のなかで狩猟免許取得希望者を募集。また、独自に狩猟免許試験対策講習会を実施。
 - ➡ 若い世代の免許取得が促進され、次の人材を育成する仕組みも構築されている。
- 農作物被害対策アドバイザーを招いた研修会を定期的に行っている。
 - ➡ 科学的な知見と地域の実情に沿った被害管理計画が立てられている。